

好ましい人間関係を育てるための学級づくりの研究

- 学級活動における学習発表会と異年齢との交流活動の振り返りの時間を通して -

巖木町立巖木小学校 教諭 川橋 誠信

要 旨

本研究では、学級活動の中に、学習発表会や異年齢との交流活動の振り返りの時間を設け、学級の中に好ましい人間関係を育てるための授業を行った。その中で、友達のいいところの視点に気付かせたり、友達からいいところを見つけてもらった心地よさを感じさせたり、よりよい友達との接し方を分からせたりして、友達と良い人間関係を築くための行動の仕方を自己決定させた。また、日ごろの生活の中で実践できるような取組を行った。

その結果、好ましい人間関係をつくっていかうとする意欲をもった子どもを育てることができた。

<キーワード> 学級活動 学習発表会 異年齢との交流活動

1 主題設定の理由

現在、子どもたちを取り巻く環境を見ると、少子化や核家族化が進んでいる。また、子どもたちは、地域の人との触れ合いも少なくなり、人間関係が希薄な中で育ってきている。そのため、子どもたちは、よりよい人間関係をつくるのに必要な資質や能力、態度を身に付けずに学校生活を営んでいることが少なくない。

子どもたちが健やかに成長・発達していくためには、学校生活の基盤である学級が子どもたち一人一人にとって存在感がある場であり、自己実現の場となることが大切である。学級経営では、子どもたち同士が相手の身になって考えたり、相手のいいところを見付け、お互いに協力し合ったりするような、好ましい人間関係を育てていくことが求められている。

そこで、学級活動の中に学習発表会や異年齢との交流活動の振り返りの時間を設け、友達のいいところの視点に気付かせたり、いいところを見つけてもらった心地よさを感じさせたり、友達とのよりよい接し方を分からせたりする。そして、友達と良好な人間関係を築く行動の仕方や友達との接し方を考えさせることで、好ましい人間関係を育てたいと考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

子ども一人一人が友達のいいところを見付け、お互いに認め合うことができる好ましい人間関係を育てる学級経営の在り方を探る。

3 研究の仮説

学級活動の中に、学習発表会や異年齢との交流活動の振り返りの時間を設定し、友達のいいところを分からせたり、これまでの自分自身の友達との接し方を見直させたりすることができれば、学級内の人間関係が良好になり、一人一人がお互いに認め合えることができるであろう。

4 研究の内容と方法

- (1) 児童の学級内における友達関係を実態調査し、学級に合った手立てを研究する。
- (2) 学級経営や好ましい人間関係の在り方について、文献による理論研究を行う。

- (3) 授業の実践によって仮説の有効性を検証する。
- (4) 研究のまとめと今後の課題を明らかにする。

5 研究の実際

(1) 好ましい人間関係について（理論研究）

ア 好ましい人間関係の必要性

教育課程審議会答申や小学校学習指導要領総則の中で、学校生活、学習指導、生徒指導の基盤としての好ましい人間関係の重要性が述べられている。学級は、子どもたちにとって学校生活の中で、最も基盤となる場である。そのため、学級における友達との人間関係の在り方は、学習意欲、生活意欲など学校での子どもたちの学習や生活に大きな影響を与えることになり、好ましい人間関係は学級において必要不可欠なものだと考える。

イ 好ましい人間関係をつくるためのプロセス

日ごろの学級生活における個人や集団の交流の中で、お互いに協力や信頼、尊敬や尊重、思いやり、忠告や励まし、助け合い、協働や受容の関係を築くことで、学級の子どもたちに所属意識や仲間意識が育ってくる。そのような中で学級の中に少しずつ共感的、親和的雰囲気芽生え、子どもたち相互の好ましい人間関係がある学級になっていくものと思われる。

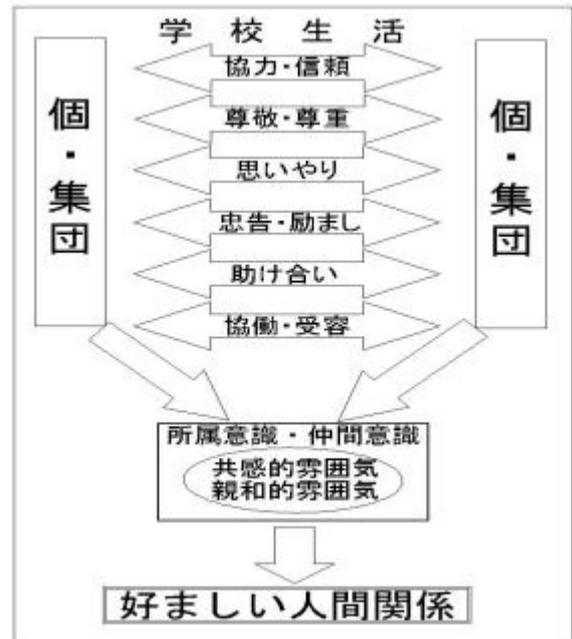


図1 好ましい人間関係をつくるプロセス

(2) 授業実践

ア 研究の全体構想

本研究では、学習発表会や異年齢との交流活動を計画実践し、その振り返りを学級活動において行うことで、学級内に好ましい人間関係をつくる意欲をもたせるようにしたい。

まず、学校行事である学習発表会や異年齢との交流活動の準備や実践を行う中で、友達のいいところを見付け、帰りの会で発表し合ったり、いいところカードを交換したりする。そして、学級活動において、活動の振り返りの時間を設定する。振り返りの時間では、ロールプレイングによりいいところの視点を増やしたり、いいところさがしをしておいたものやいいところの視点に合ったいいところを発表し合うことにより、友達のいいところが改めて分かり合えるようにする。そして、自分自身のこれまでの生活を振り返り、これからの生活の中で自分の行動の仕方や友達との接し方を自己決定させていく。その自己決定したことを日ごろの生活の中で実践して

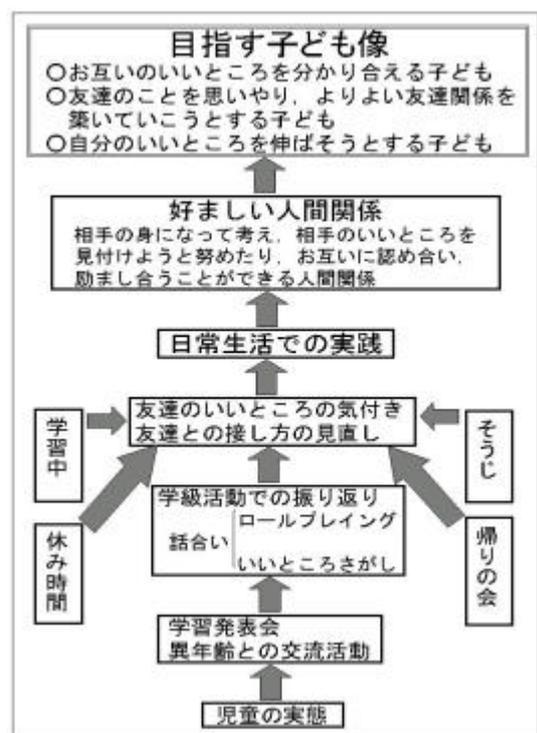


図2 研究の全体構想

いくことにより，学級内の人間関係が良好なものになっていくものと思われる。また，子どもたちが自己決定したことを長く実践することにより，好ましい人間関係が育てられると考える。

イ 授業の構想

検証授業は、「気付く 分かる 生かす」という学習過程で行い，話合いやロールプレイングの在り方の違いにより2つのパターンに分けた。

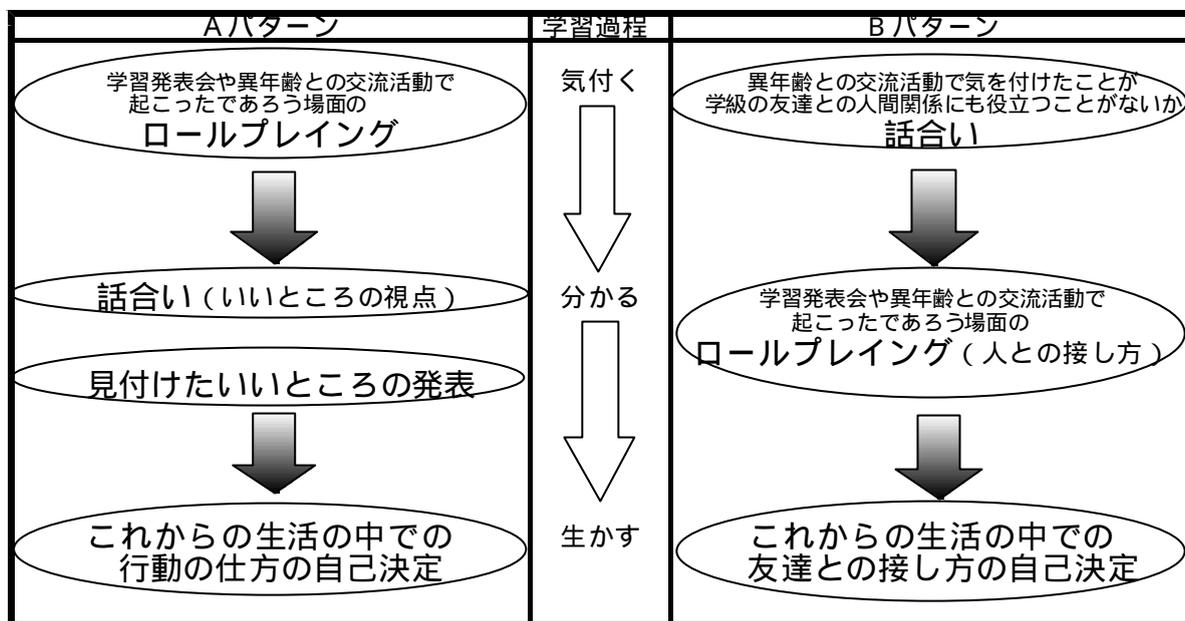


図3 検証授業の学習過程

Aパターンは，問題把握（気付く）の段階に学習発表会や異年齢との交流活動で起こったであろう場面のロールプレイングを代表者が行う。そのロールプレイングを見て，話し合うことにより友達のいいところの視点をつかませる。そして，学習した視点に合った友達のいいところを発表し合って，いいところを見付けてもらった心地よさを感じさせる。最後に，これからの生活の中で友達のいいところを見付けていこうとする意欲や自分のいいところを伸ばしていこうとする意欲をもたせるようにする。

Bパターンは，異年齢との交流活動で気を付けたことが，学級の友達との人間関係にも役立つことがないか話合いにより，気付かせる。そして，問題追求（分かる）の段階に学習発表会や異年齢との交流活動中に起こったであろう場面のロールプレイングを2人組で行わせ，よりよい友達との接し方を体験を通して理解させる。その上で，これからの生活の中で，友達とのよりよい人間関係をつくるための友達との接し方について自己決定を行うようにする。

ウ 授業の実際

(ア) Aパターンのロールプレイング

1年生との交流活動で起こったであろう場面(準備でのゲーム係の話合い・交流会でのすごろく作り)のロールプレイングを教師が設定し，児童の代表者が行った。

係の仕事を頑張っている場面の設定
 A ねずみ取りゲームどうしようか。
 B いいアイデアないかな。
 C 1年生がやり方をちゃんと分かったほうがいいんじゃない。
 A そーねー。
 B そしたら曲をテープに録音したり，マイクでよく聞こえるようにしようか。曲はクリスマスが近いから にしよう。
 C それはいいアイデア ちゃんすごい。

すごろく作りで1年生にやさしく教えている場面の設定
 A ねえ，これどうするの。
 B ぼくも分からない。
 C 君はここに絵をかいてね。
 君は，このマスをなぞってね。
 A うん，分かった。よーし頑張るぞ。
 B ぼくも頑張ろう。

(イ) Bパターンのロールプレイング

学習発表会や異年齢との交流活動の準備で起こったであろう場面のロールプレイングを教師が設定し、児童が2人組になって、交代で行った。

困っている人：ねえ、ちゃんこれを手伝ってくれない。
 手伝う人：Aたいへんだね。手伝うよ。
 Bうーんどうしようかな。ぼくも仕事があるし。(間)でも、手伝うよ。
 C自分の仕事じゃない。自分だけでやれば。

どちらのロールプレイングにおいても、場面やせりふは、すべて教師が設定し、また、見ている児童が演じている児童の役柄がそのまま児童の性質ととらえないように、ロールプレイングを行う前にあらかじめ説明を行った。

| A パターン | 学習過程 | B パターン |
|---|----------------------|---|
| <p>Tこの2つの場面でいいところだと思うところはどこですか。 Cおたがいをほめていたところです。 C1年生に分かるように頑張っていたところです。 C1年生に分かるように一生懸命考えていたところです。 C1年生のことを考えて工夫しているところです。 C1年生に分かりやすいように説明していたところです。</p> | <p>気 付 く</p> | <p>T幼稚園生との交流会で気を付けたことはどんなことですか。 C幼稚園生が楽しめるように遊びを工夫しました。 C何かできたらほめるようにしました。 Cルールなど分かりやすいようにしました。 C幼稚園生の気持ちを考えるようにしました。 T交流会のときに気を付けたことが学級の友達と接するときにも生かせることはありませんか。 C相手の気持ちを考えて相手の気持ちを悪くしないようにしたらいいと思います。 C学級の人にも幼稚園生と同じように優しくしたらいいと思います。 C相手をいやな気持ちにさせないようにしたらいいと思います。 T優しくするだけでなくほかにどんなことが必要だろう。 C相手のことをよく考えること。 C相手の気持ちを考えること。 Tそのようなことはどんなことかな。 C思いやりだと思います。 Tみんなの意見のように、交流会で気を付けたことは、学級の友達と接するときも、必要なことだと思います。</p> |
| <p>T2つの場面とも1年生のことをよく考えているね。このようないいところをどんな言葉で言ったらいいだろう。 C相手のことをよく考えている。 C相手のことを思いやっている。 T今日のいいところは、「相手のことを思いやる」と「相手の立場に立って考える」ということになります。 T交流会の準備や交流会で見付けた友達のいいところを発表しましょう。 C君がすごろくを作るとき、よく教えていました。 Cさんがすごろくのアイデアをよく出していました。 C君が1年生のお世話をよく頑張っていました。 Cさんがすごろくの下書きをよく頑張っていました。 C君が座席表を書くのを頑張っていました。 (グループに分かれいいところカードの交換を行う) Tいいところカードをもらってどんな気持ちですか。 Cいいところがたくさんあってよかったです。とても嬉しかったです。 C自分のいいところを見付けてもらって嬉しかったです。自分にいいところがあってよかったです。 C嬉しくて気持ちがいい感じ。頑張ったかいがありました。 Cいいところや頑張っているところを見付けてもらって嬉しかったです。 T友達は、みんなのことをよく見てくれていて、驚いたんではないかと思います。だれでもいいところを見付けてもらおうと嬉しいし、また、頑張ったかいがあったと思えて気持ちいいんだね。これからもどんどん友達のいいところを見付けていってください。</p> | <p>分 か る</p> | <p>Tみんなでロールプレイングを行いました。その感想を発表してみてください。 CAはありがたいと思います。自分の仕事もあるのに人のことを優先させてくれたからです。Bは嬉しい。たしかに自分の仕事をしないといけないと思ったけれどたいへんそうだったので手伝ってくれたからです。Cはちょっとひどいと思います。たしかに自分の仕事だけれど、言い方があまりにもひどすぎると思います。 CAはたいへんだねと言ってくれたし、すぐに手伝ってくれたのでうれしい。Bはちょっといやだったけど手伝ってくれたので嬉しい。Cは言い方がとてもひどいと思いました。 CAは気持ちがこもっていて優しいと思います。Bは少しいやな気持ちもあるけど、手伝ってくれて優しい。Cは困っている人に冷たいと思いました。</p> |
| <p>友達に思いやりの心をもって、相手のことも考えていきたいと思いました。友達と仲良くしていきたいなあと思いました。 思いやりの心をもって、相手のいいところをもっと見付けて仲良くなりた。いいところカードをもらって嬉しかったので、友達のいいところを見付けて友達に</p> | <p>生</p> | <p>相手がいやな気持ちにならないように、相手の悪口やけんかなどをしないようにする。それと思いやりをもって、優しく接していけたらなあと思いました。言い方などを優しくしたいと思った。相手が気を悪くしないように友達と接していきたい。 友達のことを考えて優しくしたり、いやなことを言わないようにする。友達が困っているときは助けて</p> |

意見が大変多くなった。友達同士を承認している、されているという関係が築かれ、学級の中に支持的な風土が育ちつつあると考える。

また、「自分は学級の友達から好かれていると思う」では、9月に比べ、肯定的な意見が2倍になった。友達からいいところを見付けてもらったり、授業で自己決定した友達との接し方や行動の仕方を日ごろの生活の中で実践したりすることができるようになったためだと思われる。友達に思いやりをもって接することができるようになったり、友達の気持ちをよく考えることができるようになったりして、友達との関係に変容が見られるようになってきたと考える。

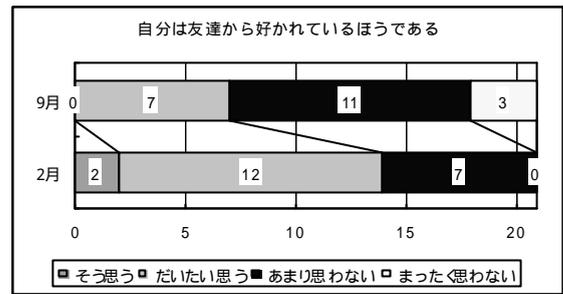


図5 学級の友達関係の変容

イ 抽出児の変容より

N子は、幼児性が残り、友達の中に入れなかった。10月のいいところさがしに比べ、2月は友達のいいところを見付ける視点や友達から見付けてもらったいいところの視点が増えている。また、人数もそれぞれ約2倍に増えており、友達から認められる、友達を認めているという関係ができつつあると考える。N子は、日ごろの生活の中でも、積極的に友達と接することができるようになっており、表情も明るくなった。

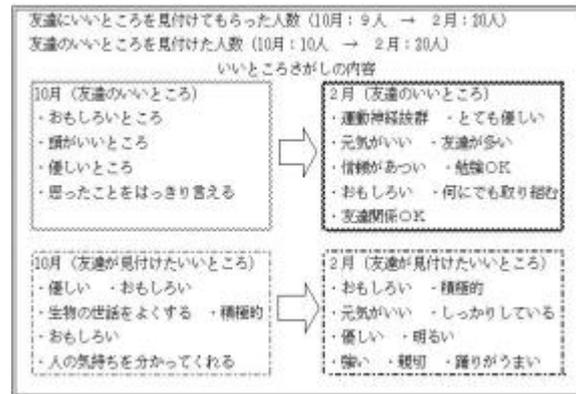


図6 抽出児N子のいいところさがしの変容

H男は、自己主張をすることが少なく、あまり目立たない子どもであった。10月には、友達のいいところの視点や友達が見付けたいところの視点がたいへん少なかった。しかし、2月には、どちらの視点とも増え、特に「よく働く」「何にでも取り組む」という視点は学級中でも他の子どもには見られないいいところの視点であり、友達にいいところを認められてきているのではないかと考える。

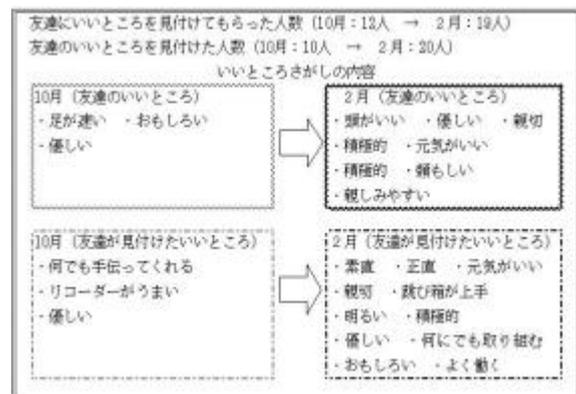


図7 抽出児H男のいいところさがしの変容

これら抽出児の変容からも学級内に好ましい人間関係が築かれていっていると考える。

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

学習発表会や異年齢との交流活動の振り返りの時間を設け、よりよい友達との接し方を自己決定させ、日ごろの生活の中で実践していこうとする意欲をもたせられたことは、友達との人間関係を良好にする上でたいへん有効だったと考える。友達のいいところが分かり、友達同士でいいところを見付け合うことで、これまでの固定的な友達の見方が変わって、友達のことを好意的に見ることができるようになり、学級での人間関係に支持的風土が高まってきたと考える。

(2) 今後の課題

学級で行った様々な活動の振り返りを学級活動の中で計画的に行うことで、更に学級内の友達同士がお互いに認め合えるようにしていきたい。